

お互いを活かし合うための人権シリーズ③

今そこにいる人と、 しっかり出会う

—同和問題—



上映時間24分

DVD 本体価格 66,000円(税抜)
[C#2574]

解説書・ワークシート付き

字幕・副音声版付き



東映株式会社 教育映像部

〒104-8108 東京都中央区銀座3-2-17
<https://www.toei.co.jp/edu/>

同和問題はわが国固有の人権問題であり、日本の長い歴史の発展の中で形作られた身分差別によって、形成されたものです。生まれた場所や住んでいる場所だけで偏見をもたれ、差別されるという理不尽な差別といえます。

いま、現代社会でもさまざまな差別の問題が起こっています。本作では、同和問題について理解を深めていただくと同時に、同和問題をモチーフに、人と人がしっかり出会い、差別とどう向き合っていくかについてのヒントになる作品となるように構成しました。ドラマ形式で描いていますので、登場人物の気持ちに寄り添って視聴することができます。

介護付き老人ホームの事務所で、先輩の介護福祉士の佐藤が、新人の臼井にこと細かく仕事を教えている。そんな時、入居者の木村からコールがある。木村は、歩行障害と手のこわばりがあり車椅子に乗っている。また、高齢のため物忘れがあり会話がかみ合わないこともある。佐藤は、木村のトイレ介助を手際よく行い、臼井もその技術とコミュニケーション力に感心して学んでいる。木村も佐藤をよく信頼している。雑談のなかで、木村は佐藤の出身を聞く。佐藤が、木村も知っているある地名を答えると、木村はなぜか態度を急変させ「もう来なくて良い」とそっぽを向いてしまう。

佐藤は、臼井に同和問題について尋ねる。臼井は、同和問題があまり話題にならない地域からやってきた。佐藤は、自分の実家が同和地区にあったことを告げる。表立った差別を受けたのは初めてで、ショックを受けたことも伝える。臼井は、帰宅して同和問題について調べてみる。

翌日、同じやりとりがあった。木村は、昨日のことを覚えていないようだった。木村が佐藤に再び出身を聞くと、佐藤は、実家ではなく現在住んでいる場所を教える。答えが違ったら、木村が昨日のような態度をとることはなかった。



木村とのやりとりについて佐藤に尋ねる臼井は、佐藤が木村から理不尽な「差別」をうけたことを感じ取る。私だったら許せないと言う臼井に、佐藤は、「許したわけではない」と言う。しかし、「しんどいときは逃げてよい」と恩師に教わったと告げる。その夜、佐藤は臼井を夕食に誘う。佐藤と親友、恩師、そして臼井が中華料理店に集っている。そこは、今回の理不尽なことにも佐藤がなぜ冷静でいられるのか臼井に教えてくれる特別な居場所だった。佐藤は言う「私には、いざとなったら駆け込める場所と支えてくれる人がいるだから大丈夫」と。そこでは、差別に対する向き合い方が語られ、恩師の宮崎は、痛みを知ることは自分の資源にもなると語る。

介護施設で木村の車椅子を押す臼井の姿があった。同和問題は、自分自身の人との向き合い方とつながっていると実感した臼井、その表情が、差す光を浴びてキラキラと輝く。

プロデューサー／中鉢裕幸 企画営業／市村浩之 企画協力／竹内良 千國久美子 脚本／山上梨香 撮影／佐藤裕三
照明／木下篤弘 録音／藤田尚也 監督・編集／越坂康史
制作協力／オープンアイズ合同会社 企画・制作／東映株式会社 教育映像部

2020年作品 p.

○本DVDは、ご購入いただいた団体(視聴覚ライブラリー・教育委員会・都道府県市町村・事業所等)内での貸出し、非営利上映を行うことを前提とした商品です。
著作権処理を行うことなく、上映会や研修会等でご使用になれます。
○本DVDについて次の行為に該当する場合は、使用の可否や別途料金などについて、必ず当社までご相談ください。
・テレビでの放映 ・ビデオ・オンデマンド等による配信
○DVDの複製(リップシンク行為も含む)、営利目的の上映・貸出し等は固くお断りします。

関東営業推進室 東京都中央区銀座3-2-17 〒104-8108 ☎03-3535-3631
関西営業推進室 大阪市北区梅田1-12-6 〒530-0001 ☎06-6345-9026
広島出張所 広島市中区橋本町5-2 〒730-0015 ☎082-511-2066

●お買い上げは……